

食品安全委員会の 9 月の運営について（報告）

1. 食品安全委員会の開催

第 253 回 9 月 4 日（木）

（1）各専門調査会における審議状況についての報告

- ・ 専門調査会から報告された以下の案件について国民からの意見・情報の募集に着手することを決定

農薬専門調査会 （2 品目）	フルアクリピリム、ペンシクロン
-------------------	-----------------

（2）食品健康影響評価

- ・ 以下の案件について検討し、食品健康影響評価の結果をリスク管理機関に通知

農薬（2 品目）	トリルフルアニド、プロポキシカルバゾン
----------	---------------------

※ 同日事務局から説明されたピリプロキシフェンについては発生毒性試験における胎児の無毒性量について、専門調査会において確認することとなった

（3）食品安全委員会の改善に向けた検討について、事務局が取りまとめた論点を再整理し、これを基に改善の方向性について議論することを決定するとともに、追加すべき論点があるかどうかなどについて、企画専門調査会の意見を併行して聴くこととなった

（4）食品安全委員会の 8 月の運営について報告

（5）食品安全モニター課題報告「食品の安全性に関する意識等について」（平成 20 年 6 月実施）の結果について報告

第 254 回 9 月 11 日（木）

（1）食品健康影響評価の要請

- ・ 以下の案件についてリスク管理機関から説明（カドミウム及び鉛については食品安全基本法第 24 条第 2 項に基づく報告も同時に行われた）

農薬（2 品目）	アジンホスメチル、プロパクロール
かび毒・自然毒等 （1 項目）	総アフラトキシン
器具・容器包装 （2 物質）	カドミウム、鉛

(2) 食品健康影響評価

- ・ 以下の案件について検討し、食品健康影響評価の結果をリスク管理機関に通知

農薬（２品目）	アセキノシル、ピリブチカルブ
遺伝子組換え食品等（１品目）	コウチュウ目害虫抵抗性トウモロコシMIR604

(3) リスクコミュニケーション専門調査会から「意見交換会の実施と評価に関するガイドライン」及び「地方自治体との協力」における当面の取組方向について報告

(4) 「食の安全ダイヤル」に寄せられた質問等（平成 20 年 8 月分）について報告

(5) その他

- ・ 食品健康影響評価技術研究運営委員会委員の改選案について事務局から説明し、案のとおり了承
- ・ 平成 20 年 7 月 31 日に公表した委員長談話の別添資料の一部変更について事務局から説明
- ・ 消費者安全情報総括官制度について事務局から報告
- ・ 非食用の事故米穀の不正規流通について農林水産省から報告

第 255 回 9 月 25 日（木）

(1) 食品安全基本法第 11 条第 1 項第 1 号の食品健康影響評価を行うことが明らかに必要でないときについて（照会）

- ・ 食品衛生法第 11 条第 1 項の規定に基づき定められた「食品・添加物等の規格基準」の「ネオテーム」の成分規格における試験法の一部を改正することに関し、食品安全基本法第 11 条第 1 項第 1 号の食品健康影響評価を行うことが明らかに必要でないときに該当すると確認された。

(2) 食品健康影響評価の要請

- ・ 以下の案件についてリスク管理機関から説明

動物用医薬品 （５品目）	① 鶏脳脊髄炎・鶏痘混合生ワクチン（ノビリスAE＋Pox） ② 鶏伝染性気管支炎（AK01株）生ワクチン（アビテクトIB/AK） ③ 豚パルボウイルス（油性アジュバント加）不活化ワクチン（パルボテック） ④ 塩化ナトリウム、塩化カリウム、塩化カルシウム及び酢酸ナトリウムを有効成分とする牛の注射剤（酢酸リンゲルーV注射液） ⑤ 鶏伝染性気管支炎（4-91株）生ワクチン（ノビリスIB4-91）の再審査
飼料添加物 （２品目）	ノシヘプタイド、エフロトマイシン

動物用医薬品／ 飼料添加物 (1品目)	アビラマイシン
食品衛生法第11条第3項の規定に基づき、人の健康を損なうおそれのないことが明らかであるものとして厚生労働大臣が定める物質(1物質)	タウリン

(3) 各専門調査会における審議状況についての報告

- 各専門調査会から報告された以下の案件について国民からの意見・情報の募集に着手することを決定

添加物専門調査会 (1品目)	ソルビン酸カルシウム
化学物質・汚染物質専門調査会 (清涼飲料水関係 7物質)	ベンゼン、1,2-ジクロロエタン、臭素酸、トリクロロエチレン、ジクロロメタン、テトラクロロエチレン、トルエン

(4) 食品健康影響評価

- 以下の案件について検討し、食品健康影響評価の結果をリスク管理機関に通知

農薬(2品目)	オキサジアゾン、カルボキシシン
清涼飲料水 (1物質)	カドミウム
遺伝子組換え食品等(4品目)	① チョウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシBt11系統とコウチュウ目害虫抵抗性トウモロコシMIR604系統を掛け合わせた品種 ② コウチュウ目害虫抵抗性トウモロコシMIR604系統と除草剤グリホサート耐性トウモロコシGA21系統を掛け合わせた品種 ③ チョウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシBt11系統とコウチュウ目害虫抵抗性トウモロコシMIR604系統と除草剤グリホサート耐性トウモロコシGA21系統を掛け合わせた品種 ④ コウチュウ目害虫抵抗性トウモロコシMIR604(飼料)

(5) 事故米穀の不正規流通事案に関する対応策緊急取りまとめへの対応について及び中国における牛乳へのメラミン混入事案への対応について報告

2. 専門調査会の運営

(1) リスクコミュニケーション専門調査会

第40回 9月19日(金)

- ・ フランス国立科学研究センターのクロード・フィッシュラー研究ディレクターより、食に対する国ごとの認識の類似性及び特異性や、リスク認知を形成する文化的要因について講演
- ・ 食品のリスク認知等について、専門委員とフィッシュラー氏による意見交換

(2) 添加物専門調査会

第62回 9月29日(月)

- ・ ①「乳酸カリウム」、②「2-エチルピラジン」及び③「2-メチルピラジン」について調査審議し、①については継続審議、それ以外については原案どおり、食品安全委員会に報告することを決定

(3) 農薬専門調査会

第19回 確認評価第一部会 9月3日(水)

- ・ ①「トリフルスルフロンメチル」、②「プリミスルフロンメチル」及び③「フルフェナセット」について調査審議し、③については継続審議、それ以外については評価書案を一部修正の上、幹事会に報告することを決定

第15回 確認評価第二部会 9月10日(水) ※非公開

- ・ ①「シフルフェナミド」、②「ピメトロジン」及び③「ベンスルフロンメチル」について調査審議し、評価書案を一部修正の上、幹事会に報告することを決定

第25回 総合評価第一部会 9月19日(金) ※非公開

- ・ ①「ジメテナミド」、②「ダイアジノン」及び③「プロスルホカルブ」について調査審議し、①については継続審議、それ以外については評価書案を一部修正の上、幹事会に報告することを決定

第43回 幹事会 9月30日(火)

- ・ ①「EPN」、②「イミシアホス」、③「ジクロシメット」、④「ピラスルホトール」、⑤「フェノキサニル」、⑥「フェリムゾン」及び⑦「フェントラザミド」について調査審議し、それぞれ評価書案を一部修正の上、食品安全委員会に報告することを決定

(4) 動物用医薬品専門調査会

第98回 9月30日(水) ※非公開

- ・ ①「オメプラゾール」及び②「エプリノメクチン」について調査審議し、それぞれ評価書案を一部修正の上、食品安全委員会に報告することを決定

(5) 器具・容器包装専門調査会

第1回 生殖発生毒性等に関するワーキンググループ 9月25日(木)

- ・ 生殖発生毒性等に関するワーキンググループを設置した経緯について、事務局より概要を説明
- ・ 専門委員及び専門参考人の紹介の後、山添専門委員が専門委員の互選により座長に指名され、了承された
- ・ 事務局より、海外におけるビスフェノールAの評価状況及びその骨子等について説明
- ・ 海外の評価書の内容を踏まえた評価書の骨子(案)について検討が行われ、各国の評価を参考に、毒性影響ごとに分担して評価書の原案を作成していくこととされた
- ・ 厚生労働科学研究費補助金により実施された研究について、評価を行うために必要な追加資料の提出を依頼することとされた

(6) 化学物質・汚染物質専門調査会

第4回 幹事会 9月2日(火)

- ・ 清涼飲料水を対象とした「ヒトに対する経口発がんリスク評価に関する手引き」を了承
- ・ ①「ベンゼン」、②「1,2-ジクロロエタン」、③「臭素酸」、④「トリクロロエチレン」、⑤「ジクロロメタン」、⑥「テトラクロロエチレン」、⑦「トルエン」及び⑧「カドミウム」について調査審議し、⑧は一部修正の上、それ以外については原案どおり、食品安全委員会に報告することを決定

第2回 鉛ワーキンググループ 9月29日(月)

- ・ 評価書案について事務局から説明が行われ、次回までに内容を精査し、修文、追記等を行うこととされた
- ・ 鉛の有害影響と血中鉛濃度との関係を調べた知見について、今後評価を行っていく際の留意点等が検討された

3. 意見交換会等の開催

食品の安全性に関する地域の指導者育成講座

9月5日(金) <京都府京都市>

- ・ 食品安全委員会と京都府の共催で開催し、事務局から「食品安全のためのリスク分析(食品のリスクとのつきあい方)」と題して講演を行った後、ゲーミングシミュレーション「クロスロード」の説明とグループに分かれての演習を実施

4. その他

食品安全委員会とともに考える～食のグローバル化 みんなで守ろう食の安全～

日時：平成20年9月17日（水） 10：30 ～ 17：15

9月18日（木） 10：00 ～ 16：40

場所：三田共用会議所（港区三田2丁目1番8号）

主催：食品安全委員会

● 9月17日（水）

○ セッション1：オープニングセッション 特別委員会

（1）挨拶：内閣府特命担当大臣（食品安全）宇宙開発担当 野田 聖子

（2）講演：食品安全委員会委員長 見上 彪
「食品安全委員会の5年間の取組と今後の課題」

（3）講演：欧州食品安全機関（EFSA）科学委員会及びアドバイザリーフォーラム
ユニット長 ディエン・リーム 氏
「EFSAの取組と今後の課題等」

（4）意見交換：ディエン・リームを交え、食品安全委員会委員による意見交換
・ 各委員から食品安全委員会の5年間の活動の成果や今後の課題等につき、それぞれの考えを発言。また、リーム氏からはEFSAの状況等につき紹介があった。

○セッション2：パネルディスカッション「どう守る食品の安全性－食品安全委員会の役割と課題－」

・ パネリスト：

欧州食品安全機関（EFSA）科学委員会及びアドバイザリーフォーラムユニット長
ディエン・リーム 氏

東京大学大学院教授 吉川 泰弘 氏

前全国消費者団体連絡会事務局長 神田 敏子 氏

食品安全委員会委員長代理 小泉 直子

・ コーディネーター：NHK解説委員 合瀬 宏毅 氏

・ 各パネリストから、食品安全委員会の5年間の活動についての印象等について発言。
その後リスクコミュニケーションの手法等についてディスカッションが行われた。

○セッション3：食品安全に関する研究事業成果発表会

・ コーディネーター：食品安全委員会委員 長尾 拓

（1）食品安全委員会が推進した食品安全に関する研究成果の発表

・ 国立医薬品食品衛生研究所 広瀬明彦 氏から「器具・容器包装に用いられる合成樹脂のリスク評価法に関する研究」を発表。

（2）厚生労働省が推進した食品安全に関する研究成果の発表

・ 独立行政法人国立健康・栄養研究所情報センター 梅垣敬三 氏から「いわゆる健康

食品の安全性に影響する要因分析とそのデータベース化・情報提供に関する研究」を
発表。

(3) 農林水産省が推進した食品安全に関する研究成果の発表

- ・ 農林水産省消費・安全局消費・安全政策課 大島潔 氏から「農林水産省におけるリスク管理の取組と調査研究～クロロプロパノール(3-MCPD)を例に～」を発表。
- ・ コーディネーターである長尾委員のコメントも交え、会場の参加者と質疑応答が行われた。

● 9月18日(木)

○ セッション4：全国食品安全連絡会議「地域におけるリスクコミュニケーションの促進」

- ・ コーディネーター：食品安全委員会委員 野村 一正、本間 清一

(1) 食品安全委員会のリスクコミュニケーションの取組

- ・ 食品安全委員会事務局 リスクコミュニケーション官 小平均 から説明。

(2) 地域でのリスクコミュニケーションの取組の事例

- ・ 栃木県宇都宮市での取組について、宇都宮市保健福祉部保健所生活衛生課 総括主査 関哲 氏から説明。
- ・ 兵庫県での取組について、兵庫県健康福祉部健康局生活衛生課 食品衛生係長 橘田達慶 氏から説明。

(3) 意見交換

- ・ 全国の自治体の食品安全担当者が参加し、情報公開のあり方や教育分野とのかかわりなどについて、会場の参加者も交えて意見交換が行われた。

○セッション5：国際ミニシンポジウム

(1) 「食文化と食の安全」

- ・ 講演者：国立民族学博物館名誉教授、林原美術館館長 熊倉 功夫 氏
フランス国立科学研究センター教授 クロード・フィッシュラー 氏
- ・ コーディネーター：食品安全委員会委員 畑江 敬子
- ・ 「日本の伝統的な食文化の安全」について熊倉 氏が講演。
- ・ 「食品のリスク認知ー共通性と文化差ー」についてフィッシュラー氏が講演。
- ・ 食品の安全を確保するために伝統的に培われてきた食文化や、リスクの捉え方に関する各国の違い等について、会場の参加者を交えて、意見交換が行われた。

(2) 「食品安全のための国際連携」

- ・ 講演者：日本獣医生命科学大学教授 鈴木 勝士 氏
米国環境保護庁農薬業務部登録課長 ロイス・ロッシ 氏
- ・ コーディネーター：食品安全委員会委員 廣瀬 雅雄
- ・ 「農薬の食品健康影響評価の国際化」について鈴木 氏 が講演

- ・ 「国際ジョイントレビュー：新規農薬の有効成分」についてロッシ 氏が講演。
- ・ 国際ジョイントレビューの実施にあたって、問題となりうる各国の評価法の違いや、作業量の増加等の懸念などについて、会場の参加者を交えて、意見交換が行われた。

● 9月17日（水） ～ 18日（木）

○セッション6：食品の安全性確保の関連展示

- ・ 食品安全委員会および地方自治体等による食品の安全性に関する取組について、パネル等により紹介・解説。

以上